

令和5年度 予算編成方針の概要

【本市の財政状況】

将来の財政需要に備え一定程度の財源を確保するも、財政構造は硬直化

- ・ 令和3年度決算では、実質単年度収支が6年ぶりの黒字となった
- ・ 今後の財政需要に必要な財源を一定程度積み増すことができたが、特別交付税の増や国庫支出金等の超過交付金などによる要因が大きかったことに留意が必要



令和4年第3回定例会後の財政調整基金残高 約29億4,800万円
(前年同時期と比べ約11億8,100万円の増)

- ・ 財政力指数 0.463 ⇒ 5割以上を普通交付税に依存
- ・ 経常収支比率 91.6% ⇒ 90%を超える状況が続いている



依然として、硬直化した財政構造

【今後の財政運営】

将来にわたり行政サービスを安定的に提供できる財政構造の確立

- ・ 長期化する新型コロナウイルス感染症
- ・ ロシア・ウクライナ情勢などによる原油価格や物価高騰



歳入：市税収入の減少が懸念されるなど、不透明
歳出：燃料・光熱水費だけにとどまらない物価上昇による経費増

- ・ 扶助費や公共施設の老朽化対策などに必要な費用は年々増加



今後も厳しい財政運営が見込まれるため、収支改善の取組を継続し、
将来にわたり持続可能な財政構造の確立を図る必要がある

【予算編成のポイント】

財源の重点的な配分の視点を持ち、必要な施策を適切なタイミングで実施

- ・ 本市が抱える人口減少問題をはじめとした多くの行政課題について、着実に解決へ導くため、施策の優先順位を考慮した、メリハリのある予算編成が必要



限られた財源を、最重要課題である人口対策、自治体DX、ゼロカーボン
関連事業へ重点的に配分する意識を持ち予算編成に取り組む

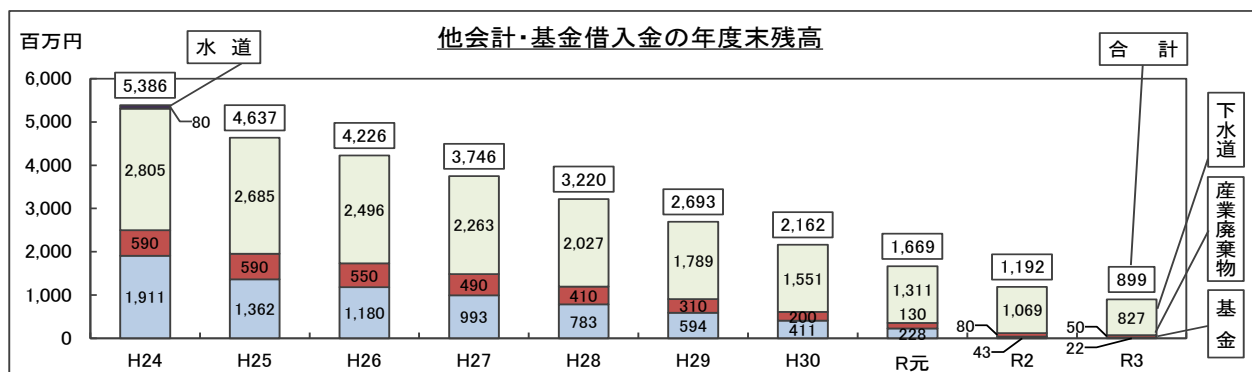
(参考) 財政状況補足資料

○一般会計の決算状況

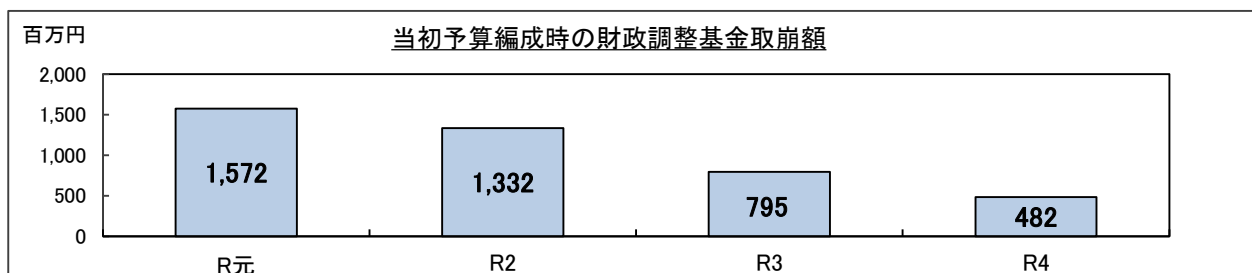
(単位: 百万円)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
実質収支	157	286	500	1,922	663	221	216	141	166	1,695
単年度収支	▲1,017	130	214	1,422	▲1,259	▲442	▲5	▲75	25	1,529
実質単年度収支	654	▲443	358	1,744	▲298	▲410	▲194	▲517	▲155	1,612

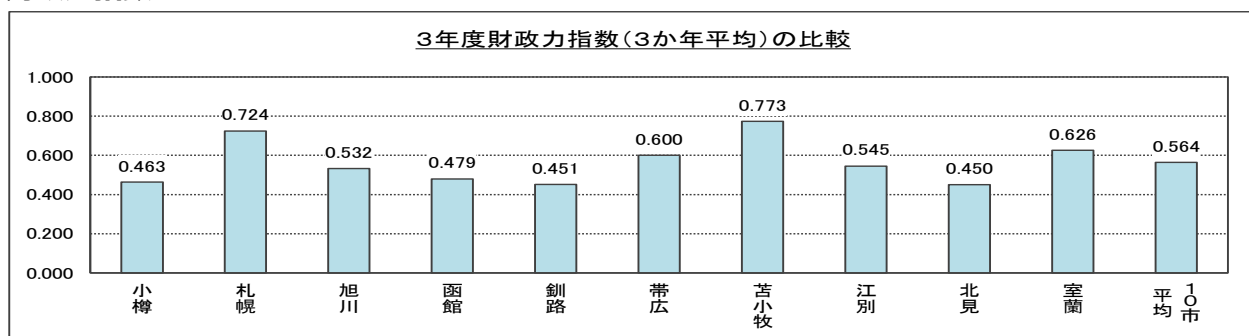
○他会計・基金からの借入残高



○当初予算編成における財政調整基金からの取崩状況 (収支改善プラン策定後)



○財政力指数



○経常収支比率

